

～身体抑制法～ 体動のコントロール（物理的な体動調整法）

最大の目的は、不意な体動による治療中の事故を防ぐこと。

適切な行動がとれないことへの罰として用いられたと誤解されないように適用することが重要である。

知的能力障害では、治療目的が理解できないための不安や恐怖から、自発的な開口や開口保持，協力的で安定した姿勢の維持が困難な場合があり，患者の突発的な動きによる偶発事故を防止し，歯科診療を安全かつ確実にを行うためには，体動を適切にコントロールする必要がある。

脳性麻痺の患者でみられる原始反射には，神経生理学的な反射抑制の体位を応用して緊張の低減をはかる。

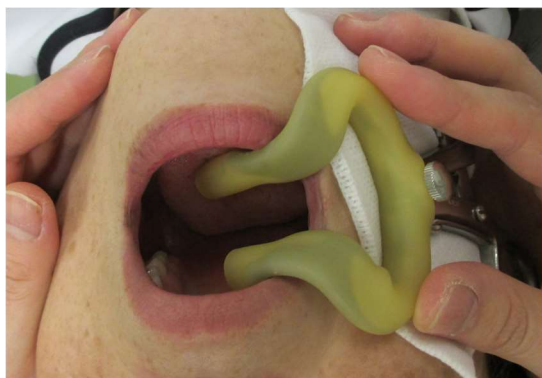
徒手，タオルやマジックベルトを用いたり，レストレーナーやネットなどを用いて患者の動きを安定させる。

開口保持が困難な場合には，開口の保持を目的に開口器やバイトブロックなどが応用される。

「安全性」，「緊急でやむを得ない場合（切迫性がある、代替法がない、一時的に使用）」に限り応用すべきである。

保護者（介護者）の方には，抑制の必要性と得失について十分に説明し，同意の下に行い，必要以上の抑制は避ける配慮が必要となる。

当診療所では，通称「バンビ」という心身障害者治療用抑制帯を用いる。



開口器



バンビ